

# 謹賀新年



教職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

新たな決意を胸に、良き年をお迎えになられたこと心からお喜び申し上げます。

さて、今年の干支は、甲午（きのえうま）。「甲」は十干の始まりであり、「午」は十二支の第七番目。干支の組み合わせによるところの六十年の波で考えると、丁度折り返しの年にあたります。さらに、十年周期で考えるとスタートの年であり、後半の30年に向かうスタート台を築く年にもなります。つまり、本年度は新たな挑戦、出発の年なのです。

現在、グローバル化や高度情報化、少子高齢化など、誰もが経験知を持たない変化の激しい時代に入っており、多くの教育課題が山積する状況となっています。このような中、国の教育改革の流れの中にも、これから10年間の教育のあり方を示す新たな方向性が示されています。

本市においては、4年前、全国で3番目となる教育立市宣言により教育をまちづくりの中核に据え、“ふるさとをつながりによって豊かな学びを！”を合言葉に、新たな時代に向けた基盤づくりに取り組み始めております。

なかでも、全中学校区で小中一貫教育に踏み出すとともに、郷土の歴史や文化を学ぶ「ふるさと学」、小3からの英語授業、すべての教室に電子黒板等を完備させ学力の向上を図るなど、“縦のつながり”としての様々な取り組みが進んでいます。これらは、昨今、グローバル社会に活躍できる人材育成の充実を打ち出した国の流れにも軌を一にしており、とりわけ、11月の「古典の日」を中心に、全校で文化・伝統に関する体験活動をカリキュラムに組み入れ、郷土や我が国の文化・伝統の中に内包されている美しき日本の感性や心の在り方を学ぶ取り組みを充実していただいていることはその最たるところであります。

一方、“横のつながり”として、学校、家庭、地域それぞれが協働して、子どもたちを育てる学校運営システムの基盤として、「学校運営協議会」いわゆるコミュニティ・スクールが全小学校に導入され、今年で3年目を迎えます。

地域総ぐるみで子どもたちを育てる風土を醸成していくための“学びの里での挑戦”は途に就いたばかりですが、近い将来、地域のコミュニティの中核施設として学校が機能し始める時期は間近まで来ております。今後、この縦糸と横糸の質を高めながら、本年度をさらなる挑戦、出発の年として、市内の教職員、教育関係者すべてが全力を傾け取り組んでいただくことを願っております。

仏の教えに、「すぐれた人の側にいると、気づかないうちに自分もすぐれた人になっている」という考え方があり、このことを「熏習（くんじゅう）」と呼ぶそうです。

常に香を薫じていますと、いつの間にか、その部屋や敷物までもが香りに染みるように、人の精神や行いは、他者の心の奥底まで影響を与えていくことを意味します。

毎日の家庭生活での躰や規範意識などは、まさに親から子へ、孫へと熏習されて育つものです。私たち大人や保護者自身のあり様が、いかに大切なことかを思わずにはられません。

学校において、日々子どもたちと接しておられる皆様方の笑顔や言葉、そして、人として磨かれた性向が、子どもたちの学びや育ちに深く関わっていただくに、「熏習（くんじゅう）」の教えを大切に、今後ともプロの教師としての自覚と崇高な使命感、そして深い愛情と熱意を持って、教育に心血注がれることを心からお願いいたします。

平成26年 甲午 正月

河内長野市教育委員会 教育長 和田 栄

